

VOL.82
5月議会
令和8年8月発行

議会だより

みなべ

- 条例改正 2
- 補正予算、注目予算のピックアップ 3
- 議案審議 (Q & A) 4・5
- 町政のここが聞きたい 一般質問 6～9
- 常任委員会レポート 10・11
- 防災あれこれ 12

鹿島神社奉納花火祭

みなべ町新条例の制定

岩代駅舎 設置・管理条例

岩代駅の駅舎が 町の施設となります

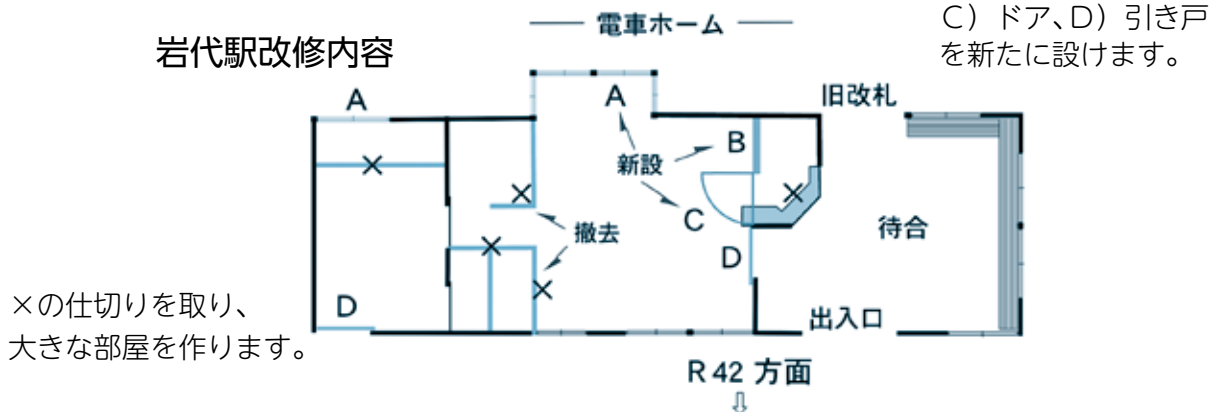
みなべ町では、南部、岩代両駅を中心とした“まち”の活性化に向けて検討・協議を進めています。その一環として、このたび岩代駅舎がJR西日本からみなべ町に無償譲渡されることになりました。そのうえで、ここを住民の交流・活動拠点とすることになりました。

この条例は、こうした事業を進めるために町の公共施設として定めるものです。



駅舎は耐震補強をしたうえで、住民が集えるスペースを確保します。電車の乗降については、これまでと何も変わりません。

岩代駅改修内容



P3 参照

一般職 任期付職員採用条例

地域防災マネージャーとして 外部から人材を迎え入れます



この職員は、8月1日から職務につきます。自衛官としての経験や人脈を生かした防災対策の充実強化が期待されます。

なお、この条例は、将来的に防災分野以外の人材確保も視野に、国の制度に沿った内容としています。

防災体制の強化のため専門的な知見を有する人材確保に向け、このたび一定期間に限って退職された自衛官を採用することになりました。

これまでにない形での職員採用となるため新たな条例を設けました。

5月定例会の一般会計

補

正

予

算

項 目	補正額	主な内容	総 額
一 般 会 計	1億3,543万円	新庁舎移転方針検討委員会委員報償 23万円 庁舎移転構想・計画策定支援委託料 1,595万円 M i 館解体撤去工事実施設計 300万円 海業取組促進事業委託料 710万円 岩代駅改修工事費（監理委託料含） 6,100万円 公用車購入費 110万円 高城こども園空調設備更新工事費 2,204万円	102億4,643万円
国民健康保険 特別会計	0円	歳入予算の財源更正（財源を変更） 2,000万円	17億4,860万円

注目予算のピックアップ

～みなさんの暮らしにつながる主な事業を紹介します～

◆新庁舎移転基本構想・計画策定

予算額: 1,618万円



何をするの

新しい役場庁舎の場所や規模、機能などを総合的な防災視点から基本構想・基本計画を策定します。



ポイント

- * 防災拠点としての役割を検討
- * 将来の人口減少も見据えた計画づくり

◆岩代駅改修工事

予算額: 6,100万円



何をするの

地域交流や観光拠点として活用できるよう駅舎を改修します。



ポイント

- * 住民の交流拠点
- * 観光客のおもてなし機能を強化
- * 地域活性化をめざす

P 2 参照

◆^{うみぎょう}海業取組促進事業委託料

予算額: 710万円



何をするの

海を活かした観光や地域産業の活性化計画を策定し、新たな所得と雇用を実現します。実績ある民間事業者の力を借りながら進めます。



ポイント

- * 漁業＋観光の新たな取り組み
- * 地域経済の活性化
- * 関係人口の増加をめざす

P 11 参照

◆Mi館解体撤去工事実施設計

予算額: 300万円



何をするの

新たな避難タワー建設に向け、既存施設（Mi館）の解体設計を行います。



ポイント

- * 津波避難対策の強化
- * 安全・安心なまちづくり
- * 避難タワー建設に向けた準備を進める

主な議案質疑

Q&A編

抜粋

条例改正

総務課

一般職の任期付職員採用に関する条例の制定

Q 条例を制定する目的は。

A 災害対応体制の強化を目的に、防災分野の専門知識を持つ人材を任期付きで採用するためです。

P2参照

Q 条文では、専門性のない職として採用にも触れられているが。

A 今回は防災分野の専門人材確保が目的です。今後も専門性が必要な場合に限り適用し採用や運用は慎重に行います。

Q 地域防災マネージャーに何を期待しているのか。

A 防災計画の見直しや訓練、防災教育、自主防災組織の支援などを担い、災害時には迅速な対応、体制の構築などを期待しています。

税務課

町税条例の一部を改正する条例

Q 今回の改正による町税収への影響は。

A 令和8年度課税データから試算すると、約530万円の減収を見込んでいます。

Q 扶養親族等申告書など各対象者にどのように周知するのか。

A 町民税の申告時や納税通知書への案内文書の同封などで対応します。

国民健康保険税条例の一部を改正する条例

Q 町の国民健康保険税の県内での水準は。

A 県内でも高い水準にあり、順位は上位です。

Q 基金を活用して保険税をさらに抑える考えはあるのか。

A 基金は約1億5千万円ありますが、限りある財源です。持続可能な財政運営を見据え、基金だけでなく繰越金も計画的に活用していきます。

住民福祉課

印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例



Q 今回の条例改正の対象となる外国人は町内に何人いるのか。

A 4月末現在で対象となる外国人登録者は201名です。

なお、一体化カードへの切り替えは在留カード等の更新時に行われます。

消防防災室

防災会議条例の一部を改正する条例

Q 防災会議委員に加わる自衛官は、地域防災マネージャーとは別なのか。

A 別です。和歌山県を担当する陸上自衛隊第三十七普通科連隊の中隊長を委員として予定しています。

新庁舎移転方針検討委員会報償
(23万円)

Q 新庁舎移転方針検討委員会の任期は。

A 基本構想・基本計画の策定に合わせ、2年間を予定しています。



庁舎移転基本構想・基本計画策定支援委託料
(1595万円)

Q 新庁舎移転検討委員会の役割と今後の進め方は。

A 町が主体となって基本構想・基本計画を策定し、検討委員会から専門的・客観的な助言や提言をいただくながら進めます。

令和8年度 一般会計補正予算

【Q】移転の計画や工程を議会に示す考えはあるのか。

【A】委託事業者の選定など一定の条件が整い次第、スケジュールを示しながら進めます。

高城こども園空調設備更新工事請負費
(2204万円)



【Q】設計が完了していない時点で工事費を計上しているが、その積算の根拠は。

【A】設計業務は昨年度から実施しており、アスベスト調査分のみ追加計上

しました。工事費は設計が進んだ段階での概算額を計上しています。

防災対策費

(560万円)

【Q】地域防災マネージャーの役割と処遇は。

【A】任期付職員として「主幹（5級1号給）」を予定しております。
任期は2年です。

岩代駅改修工事請負費
(5819万円)

【Q】岩代駅改修で基金（貯金）ではなく、起債（借金）を活用する理由は。

【A】この起債は補助金の対象となっているからです。今後、国から補助金が交付される予定です。

海業取組促進事業委託料
(710万円)



【Q】海業取組促進事業の委託内容は。

【A】漁港施設の耐震診断やイベント企画、地域課題の整理などです。令和8年度末までに計画を策定します。 P3参照

Mi館解体撤去工事実施設計業務委託料
(300万円)

【Q】Mi館解体と津波避難タワー整備の考え方は。

【A】Mi館跡地に津波避難タワーを整備し、夜間避難も考慮した防災力強化を図ります。建設費は約1億5千万円を見込み、国の有利な財源を活用して整備を進めます。

化を図ります。建設費は約1億5千万円を見込み、国の有利な財源を活用して整備を進めます。



公用車購入費

(110万円)

【Q】保健福祉センターの公用車購入の理由は。

【A】訪問業務の増加により車両が不足しており、業務に支障が生じているからです。

名の内線道路改良工事請負契約の締結
(その①その②)

その①

(6842万円)

【Q】町道名の内線道路改良工事を「その1」「その2」に分けて発注した理由は。

【A】工事費が高額化し件数も減少しているため、地元建設業者の受注機会の確保や技術力向上を図ることが目的です。可能な限り工事を分割して発注しています。

その②

(1億453万円)

【Q】工事期間中、沿線住民の通行はどのように確保されるのか。

【A】通行に影響する2軒の住民と十分に相談し、農繁期なども考慮しながら、生活に支障が出ないよう工事を進めます。通行制限の時間帯についても、住民と協議のうえ対応します。

まちづくり

まる やま ゆき お
丸 山 幸 雄 議員

質問 町長就任後の総括と今後の町政運営について

答弁 計画性を重視し、次世代に繋がるまちづくりを



質問

山本町長の就任から約2年が経過し、これまでの町政運営の総括と今後の方向性について伺います。

特に、継続施策の見直しや優先順位付け、選挙公約の進捗状況、残りの任期で力を入れる分野についてお聞かせください。また、町民への情報発信の現状と課題、事業の進め方についてもお尋ねします。

町民に分かりやすく伝

わる行政運営をどのように進めていくのか、具体的な方針をお聞かせください。

町長

まず、就任から1年7ヶ月を振り返り、成果については、職員の主体的な取り組みが増えたことを挙げます。予算の見直しや働き方改革、行政改革プロジェクトチームの発足など、内部の変化が進んでいます。

選挙公約の進捗状況については、防災分野では



津波避難タワーの計画や耐震化補助の増額を進めています。地域経済では、梅の生産量維持や漁業振興に取り組み、SNSを活用した梅ブランドのPRも開始しました。全世代が安心して暮らせるまちづくりでは、ウェルビーイング指標の導入や不妊治療費助成の拡充、宅地確保の進展などを進めています。一方で、ふるさと納税や空き家活用、通学路の安全確保など、課題も残っています。残りの任期では、防災、地域経済、ふるさと納税、空き家活用、庁舎移転に力を入れたと考えています。

町民への情報発信については、広報誌やホームページを通じて一定の役割を果たしていると認識していますが、分かりづらいた点があれば改善を検討します。事業の進め方については、第3期みなべ町まち・ひと・しごと創生総合戦略を指針とし、目的や成果を明確化しKPIを設定して進捗を可視化しています。





教 育

たま い のぶ ゆき
玉 井 伸 幸 議員

質問 長距離遠征の安全確保を
答弁 町有バスの運用を柔軟にしたい



町内中学校での遠征の現状、教育委員会の対応は

質問

先日、私立高校部活動での遠征中に重大な交通事故が発生した。町内2中学校の遠征の現状ならびに教育委員会のこれまでの対応は。

教育長

町内の現状としては、公式大会では貸切バスや町所有のバスを使うことが多い一方、個人競技は人員が少なく保護者に頼ることが多くあります。

練習試合では、基本的に町所有バスは使用しないこととしていたため、野球部で貸切バスを使うことが比較的多いです。また、卓球部やテニス部が何回か電車を利用しています。練習試合は近距離開催が多く、すべての部で何らかの形で保護者に運転をお願いしています。

教育委員会では、折に触れ各校に安全確保の徹底を指導してきました。今後とも長距離移動には最大限の注意を払うよう、一層指導していきます。



今後の具体的な方策について聞きたい

再質問

各部の実情があまりにも多様なので一律のあるいは完全な対応はなかなか難しいだろう。今後はいかにリスクを下げるかという方向で注力すべきではないか。

①練習試合でも町のバスが使えるようにするなど、適用範囲を広げてはどうか。

②遠征の移動距離や回数などに一定の制限をかけるといったことを視野に入れていいのかどうか。

教育長

部活動では、生徒や顧問さらには保護者が熱心に取り組んでいます。教育委員会としては、



その気持ちをくみつつ安全確保のためのよりよい策を考えたいと思います。そのうえで、

①練習試合においても場所によっては町のバスの利用ができるよう前向きに検討したいと思っています。

②遠征の距離や回数については学校長とも協議しながら一定の制限を加える必要性を感じています。

宅地開発

みや ぎき しげ ゆき
宮 崎 繁 幸 議員

質問 宅地造成や高台移転に関する状況は
答弁 まずは庁舎移転の検討委員会を立ち上げる



質問

宅地造成や高台移転の計画進捗状況、また庁舎移転が町全体の防災・まちづくり構想にどう影響するかを伺いたい。

町長

宅地造成については、町有地の有効活用を検討中であり、津波浸水区域外の土地の売却を考えています。

住宅の高台移転は事前復興計画に基づき、南部地区内を候補としていま

すが、農地転用や道路整備など課題が多い状況です。庁舎移転については、防災を重視し、基本構想・計画策定を進めたかと考えます。庁舎移転が将来的に町全体のまちづくりに与える影響を踏まえ、必要に応じて他施設の高台移転も検討

したいです。

再質問

庁舎移転に併せて、高台移転や新たなまちづくりを考えるため、有識者や住民、議会を含めた検討委員会を設置しては。

町長

庁舎移転については浸水区域外も選択肢とし、

再々質問

住民意見を重視するため検討委員会を設置する予定です。
 一方で、議会はチェック機関の役割として切り離したいと考えています。

深い議論をするためにも、検討委員会の議員参加は必要では。

庁舎移転が地域活性化や安全なまちづくりにつながることを期待する。

町長

議会を排除する意味ではなく、今後、議会の意見も取り入れて議論を進めていく方針です。

高台移転の利点や平地移転のコスト面を含め、住民・議会の意見を反映し、町の未来に最適な選択を進めていきたいと思っています。



公共工事として開発した小山田防災拠点
 (上：造成前 下：現状)



梅産業

で ぐ ち は る お
出 口 晴 夫 議員

質問 厳しい梅産業、本町がめざす「稼ぐ農業」への施策とは
答弁 「次世代につなぐ果樹産地づくり事業」を重視



質問

梅産業の現状は厳しく、農家の努力だけでは限界です。町長は施政演説の中で本町として再現性を高める施策で、稼ぐ農業実現をめざすと述べています。その工程、行政の支援範囲について町長の見解を求めます。

町長

まず、不作の要因として、干ばつ、暖冬、蜜蜂の三つが挙げられると思います。再現性向上には「次世代につなぐ果樹産

地づくり事業」を重視。

スマート農機導入や生産基盤強化を支援します。

稼ぐ農業の具体的工程は未策定ですが、施策発案を進めます。

支援の範囲については、梅産業は町の基幹産業であり、持続可能性を重視し、行政として必要な支援に踏み込みます。

再質問

今の厳しい状況は、梅産業の構造的な危機と捉えているのか、町長の認

識を再度求めます。

また、具体的な工程表や目標設定の必要性、さらに町主導の対策会議開催について伺います。

町長

3年連続の不作は、暖冬や電被害などの影響で、産地全体の在り方を考える必要があると認識しています。町として戦略を練るべきですが、農業者や加工業者の意見を聞きながら、方向性を共に考えたいと思います。

目標設定については、町主導より農家個々が農業と家計を区別した中で、の経営改善を支援する形が望ましいと考えています。

また、対策会議開催については、「梅対策協議会」を活用し、複数回の会議開催を検討し、産地全体で危機的状況に対応していきたいと思っています。

再々質問

梅産業の再生プランを策定し、後継者不足や急傾斜地の課題を解決するため、農地バンクやパイロット園開発、スマート農業導入を検討すべきではないか。

町長

梅産業の再生は重要課題です。梅対策協議会で議論を深め、優良農地確保やスマート農業導入を進めたいと考えています。農地バンクについては令和10年を目標に整備を検討中です。若い農家が活躍できる環境を整え、産地の未来を支える仕組みづくりを進めます。

産業課長から、高城地区農地造成や、リフォーム事業について補足説明がありました。

※リフォーム事業とは、既存の農業施設・機械を修繕・改修して有効活用するための支援事業です。



総務文教常任委員会 委員会レポート



去る4月21日 女性の目線を防災対策へ
女性会のみなさまからご意見をお聴きました

実生活に密着した切実な意見が続出

総務文教委員会では、女性の意見を防災施策に生かすため、「**女性の声を聴く会**」を開きました。

みなべ女性会（細川千晶会長）のメンバー7名にご参加いただき、地

震と津波をテーマに率直な意見を聞かせていただきました。

避難所について

あらかじめ避難所に入りユツクを備えておきたい、

暑さ寒さに耐える設備がない、授乳や着替えスペースが想定されていないなどの声をいただきました。

トイレについて

地震で上下水道管が壊れた時の災害用トイレが圧倒的に足りない。また「和式トイレを使えない人もいるのでは」といった切実な声が上がりました。

ペット避難について

近年、人とペットのつながりはより強くなっています。家族の一員として守るため、町の対策の必要性、またペットを連れた場合の車避難場所の確保も指摘されました。

一方では

日頃の備えは行政任せにせず、自身で水や非常食、携帯バッテリーを常備していると紹介してくれた人もいました。

防災士との連携について

現在、町の防災士は約40人。防災リーダーをさらに育成し、防災士間の連携を強め、防災力向上をめざしてはとの意見も。



当日は、役場の消防防災室の担当者にも同席いただき、これらの声を聴いていただいています。今後の施策に生かされることが期待されます。

行政にしかできないこと、地域の力を合わせるところ、個人で備えることをしっかりと分担し、災害に強い町づくりに取り組むことが求められています。



産業建設常任委員会 委員会レポート

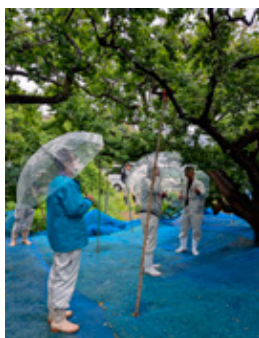


4月23日、梅の作況をはじめ、^{うみぎょう}海業や本年度に係る建設事業等について、現地視察を行いました

梅の作況調査

近年、梅の不作や不良が続くなか、今年度の着果状況視察は、従来に比べ広域的に行いました。

調査に先立ち、うめ課より日高果樹技術者協議会調べによる、令和8年産ウメ着果数調査結果の報告を受けました。



梅園地（晩稲）

作柄は、どの園地も木によってばらつきもありました。一昨年の凶作、昨年の甚大な電害に続き本年も不作感は否めませんでした。

うめ研究所では、品種別による着果状況や、降電被害を防ぐためのネ

ット被覆状況を視察しました。

調査後の委員会では、耕作放棄による栽培面積の減少や受粉にかかせないミツバチの減少、クビアカツヤカミキリ問題、温暖化に対応した品種の選抜など「南高梅」のブランドを守りつつ、生産安定に向けた対応の必要性について協議を行いました。

三年続きの作柄・品質不良となります。議会としても現状をふまえ施策に反映できるよう取り組んでいきます。

海業現地確認 （堺漁港）

堺漁港荷捌き場にて、「海業」の取り組みについて説明を受けました。

海業とは、これまで

の漁協関係施設を活用し、海の資源を生かした地域活性化事業です。

P3参照

町の提案をうけて、民間が企画、運営を進めます。

既存施設と民間資本を活用した、新たな施設との相乗効果による、地域の賑わいの創出が期待されます。



堺漁港 荷捌き場にて

建設事業関係 現地調査

町内の建設事業の現地調査を行いました。

— 建設事業現地調査順路 —

晩稲幼児公園→県道中芳養南部線→県道芳養清川線改良工事現場（面谷トンネル付近・上芳養地内）→新庄・徳蔵津波避難タワー計画予定地→堺地区津波避難路計画地→新町津波避難タワー建設予定地→町道北道稲荷線改良工事現場→西中村広畑線道路災害工事現場→ごみ処理場フェンス整備工事現場

各現場において担当課より現状と事業計画の説明を受けました。
住民の安全・安心な暮らしを守るため、より良い判断をもつて、早期完成に向け取り組みでいたきたい。

防災あれこれ

災害用トイレを準備しよう

近ごろ日本各地で地震が相次ぐなか、改めて日頃の備えの大切さを感じます。地震発生時、食料や水と同じくらい重要になるのは「トイレ」です。大地震のとき、上下水道管が壊れている目安は震度5からと言われ、トイレが使えなくなります。

トイレが使用できなくなると、水分を控えることにより脱水状態になり、体調悪化につながります。また、環境・衛生面にも悪影響を及ぼし、感染症のリスクが高まります。



非常時には身近なトイレを「災害用トイレ」に変換させ、不安を和らげましょう。

今ある便器にビニール袋を2枚被せてセットします。ペットボトルに手洗い用の水も入れておくといいですね。

田辺市上秋津小・中学校では災害トイレセットを学校トイレに日常から設置しています。ジッパー袋にビニール袋を2枚、ビニール手袋、トイレ凝固剤、アルコール消毒綿を入れています。(写真)

みなさんも自分自身の安心のため、平時から災害用トイレの備えをしておきませんか。町でも公共施設にはこの取り組みを参考にしてもらえればと思っています。



田辺市市民活動センター作成

あ と が き

今年の梅の収穫は、近年に例を見ない、まさに史上最悪とも言える不作となりました。町の基幹産業である梅に携わる多くのみなさんにとって、たいへん厳しい年となっています。

そのようななかでも、これから本格的な天日干しの季節を迎えます。手間と時間をかけて作られる梅干しは、古くから日本の食文化を支え、健康食品の代表格として親しまれてきました。暑い夏を乗り切るための知恵が詰まった、私たちの大切な地域の宝でもあります。

これからますます暑さが厳しくなる季節を迎えます。町民のみなさんには、梅干しの力も上手に活用しながら、熱中症や夏バテに十分注意していただき、健康第一でこの夏を乗り切っていただきたいと思っています。厳しい状況のなかではありますが、みなで力を合わせ、前を向いてがんばっていきましょう。

広報特別委員会 出口晴夫

議会の傍聴にお越しく下さい
次回の開会予定は次の通りです

9月議会

9月4日(金)午前9時〜